

声と心をひらく教育の舞台

内谷正文 Masabumi Uchiya

人と人をつなぐ表現の力を信じ、
子どもたちの成長を見守りながら、
地域のみなさんと共に芝居や
表現の楽しさを広げている。



ハル小屋演劇研究会
Instagram



ハル小屋演劇研究会
Facebook



秋の森まち芝居
予約フォーム



『秋の森まち芝居』に向けて

森町社会教育課の地域おこし協力隊の内谷正文です。私が目指している活動のひとつに「教育の中に表現活動を取り入れること」があります。

SNSが中心となった今の子どもたちの日常では、人と直接関わる機会が減り、「自分の思いを言葉にできない」「相手の話をじっくり聴けない」という現実があります。表現プログラムを教育に入れることで、自分の中にあるものを表に出し、相手の言葉を受け止める力が育まれます。それは学びの場だけでなく、日常を豊かにする力にもつながります。

4月からは、さわら幼稚園で『ブーミンとあそび』を始めました。3〜5歳の子どもたちが体をいっぱいに使って声を出し、イメージを表現する姿は本当に生き生きとしています。6月からは鷺ノ木小学校で4〜6年生を対象に『表現プログラム』を実施。理解力がついてきた

分、恥ずかしさを感じる子もいますが、仲間と一緒に声を出したり動いたりするうちに、少しずつ表情が和らいでいく様子が印象的です。また、地域共生サポースペース「りべるて」の子どもたちとも月に1回、表現プログラムを行い、施設長から「子どもたちの変化が楽しみです」と言っていたいています。今後は森町の中学生にも取り組みを広げていく予定です。

分、恥ずかしさを感じる子もいますが、仲間と一緒に声を出したり動いたりするうちに、少しずつ表情が和らいでいく様子が印象的です。また、地域共生サポースペース「りべるて」の子どもたちとも月に1回、表現プログラムを行い、施設長から「子どもたちの変化が楽しみです」と言っていたいています。今後は森町の中学生にも取り組みを広げていく予定です。

そしてもうひとつの挑戦は、「森町の人と一緒に演劇をつくること」です。私は2021年に「ハル小屋演劇研究会」を立ち上げ、今年で5年目を迎えました。その節目に、森町で『秋の森まち芝居』を11月に開催します。

岡嶋康輔町長も「町の活性化には演劇的処方が必要だ」と語り、自ら出演してくださいます。さらに「もりまち太鼓保存会」の皆さんとの共演も予定しており、森町ならではの舞台にします。

森町にあれば演劇が観られる。森町にあれば芝居に参加できる。そんな思いを胸に、地域の皆さんと共に歩んでいきたいと思っています。



「りべるて」の子どもたちと表現のレッスンをする内谷隊員



ブーミン（内谷隊員）と表現あそびをするさわら幼稚園の園児たち